

技11 地場産業の振興と森林保全の両立を目指した森づくり ～十勝・池田町での挑戦～

池田町役場 産業振興課林務係 主任 山本 健太

研究の背景・目的

池田町は全道有数の木炭生産地(平成28年度133トン・道内3位)です。しかしながら、伐採事業者がカラマツに集中しており、製炭事業者は原料となるミズナラ・イタヤカエデの調達に苦慮しています。一方で、池田町内の広葉樹天然林は皆伐・萌芽更新が繰り返し行われており、樹齢・樹種の構成が単調な森林となっています。そこで、製炭用原木の安定供給と多様な樹種・樹齢で構成される天然林の育成を目指し、「近自然森づくり(育成木施業)」、「自伐型林業」をキーワードとした森づくりを町有林において試験的に実施し、池田町における天然林管理のあり方・町内での普及方法について検討しました。

研究の内容・成果

<1> 育成木の選定

2か所で10種27本選定し、立木位置特定

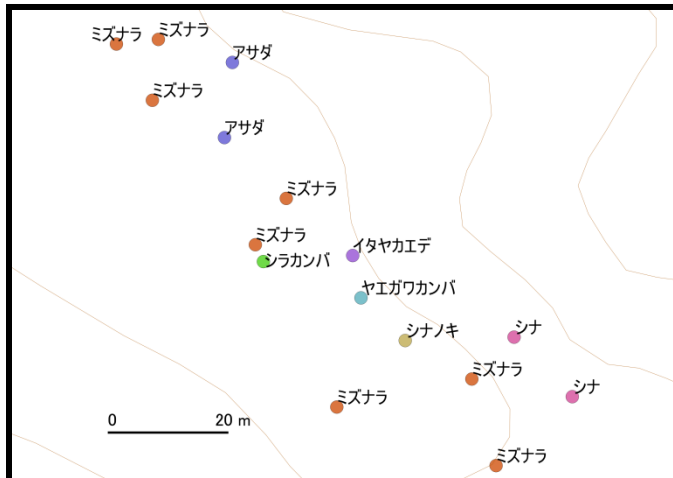


図1 育成木の位置

<2> 自伐型林業の適地抽出

工程調査・収益試算したのち、GIS上で図示

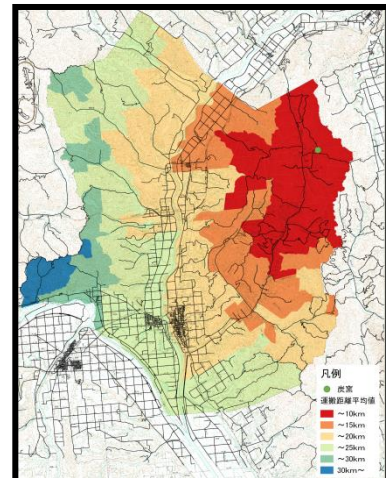


図2 自伐型林業による収益試算(赤が高収益)

<3> 町内での普及方法

町内林業グループと連携し、
研修会を開催
(2017・2018年 計8回 延べ147名)



チェーンソー研修



選木研修

新たな課題

- (1) 製炭事業者への出材量を確保するために面的な拡大が必要
- (2) 収益確保のため、製炭用に不向きな広葉樹活用法の開発が必要

今後の展開

(1) 研修会参加者による天然林管理を推進

→ 製炭用原木の供給量増大

(2) 製炭用途以外の広葉樹の活用法開発

→ 原木販売会試行、産学官連携木製品開発



研修会参加者による伐倒作業



木製楽器の製作体験・演奏会